

# つきがた 広報

No. 140

昭和56年7月10日発行  
発行/新潟県月潟村役場  
毎月10日発行 1部10円

人口動態	6月30日現在	6月中の異動
世帯数 813	人口総数 3,868	出生 3 転入 7
(男 1,880 女 1,988)		死亡 3 転出 8

(高収量が期待される大豆団地)



## 省力化と収益の向上をめざして 釣寄新に1haの大豆団地

水田転作による大豆の集団栽培がことし釣寄新において試みられています。

団地の規模は一、二ha、栽培者は磯貝善信さんら七名のグループ。

このグループは、麦、大豆の振興と土地利用の高度化により農業所得の向上をめざそうと地域農業生産総合振興事業による集団転作組合設立のための準備を進めており、全農家を対象に7月に発足予定、村より第二期対策の目標面積配分を受けた後、転作圃場の団地化と集団栽培に向けて幾度かの打合せが行われ、このほど大豆栽培にふみきったものです。

大豆は、水田利用再編対策と地域農業生産の再編を推進するにあって、その定着化が重点課題とされていますが単収が低く、しかも手間がかかり

すぎることから軽外視の傾向にあります。しかしながら、最近では栽培技術の進歩や改善技術の普及により、単収三百キログラムを上まわ

る良質多収な生産事例も出現しており、特に最近の品種では水田転換畑でも密植

して多収を得る特性をかねそなえていること、省力化しやすい輪作々物としての好適性、交付金制度によって比較的高水準の所得が期待できます。

また、利用、加工面の豊富さなど種々の有利な点があります。このような面でも、地域において実証しようとしているものでもその成果が期待されているところでは、更に、このグループでは、転作組合設立の後、麦の集団栽培に向けて検討を進めて行くこととしており、大豆班、麦班の編成で転作組合の運営強化を図って行きたいとのことでした。

単収三百kgを目標とした大豆の耕種設計は次のとおりとしています。

### 大豆耕種設計

1	目標収量	10a当 300kg
2	品種	エンレイ
3	肥料	消石灰 100kg 大豆配合30K(N-12 P-4.5 K-6.0)
4	除草	播種直後(トレフノサイド乳200cc) 本葉3葉期(クサガード100g)
5	播種	5月下旬～6月上旬 4.5kg播き ベンレート水和剤による0.5%湿粉衣
6	畦巾	75cm×20cm 1条播 6,000株
7	中耕培土	第1回目 第2葉展開期 第2回目 第4葉展開期
8	病虫害防除	7月中旬 スミチオン粉3K 8月中旬 ベンレート水和剤1000倍120g スミチオン粉3K トップジンM粉3K
9	収穫期	10月上旬
10	労働時間	30時間